

群馬県立太田高等特別支援学校 学校評価一覧表(令和6年度版)

(単位)

評価対象	評価項目	羅 針 盤 具体的数値項目	関係する 分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
					自己 評価	アンケート				
Ⅰ 幼児 児童生徒 の地域に おける豊 かな生活 の実現に 向けて努 めています か。	1 保護者、地域、関係機関と学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①学校公開を年間4回実施し、来校者の90%以上が満足している。	教育企画	・学校公開を7月と11月に2日間ずつ設定し、授業の様子や学習の成果を紹介する。 ・学校公開は、保護者及び習先等関係者にも案内し、本校の様子を広く知ってもらう機会とする。	A	A	A	7月の学校公開には2日間で9名、11月の学校公開には2日間で79名に来校していただき、本校の学習活動の様子を知っていただくことができた。アンケートでは、放課後デイサービスや習先とは異なる生徒の様子を知ることができた貴重な機会であった、との感想もいただいた。また97%の保護者から、「学校の様子があった」との評価を得た。		生徒の学習活動を妨げないように配慮しつつも、より広くの方に本校の様子を知っていただくため、学校公開の開催時期と来ていただく方の対象を検討する。
		②Webページや学校からのたより等で情報発信を行い、保護者の90%以上が満足している。	情報管理	・Webページや学年通信等で生徒の学習活動を紹介する。その際、生徒の様子を的確に伝えられるよう、生徒の活動写真を多く掲載する。 ・Webページにおける活動紹介について、学年通信等保護者に周知する。	A	A	A	97%の保護者から、本校のWebページや学校からのたよりの情報発信が、学校の様子を知る上で有用であったとの評価を得た。情報管理担当者が、学校行事の様子や学習の活動や授業の様子を随時Webページに写真を中心に掲載したためと考える。		今後も日本語を母語としない保護者や地域の方も理解できるよう、写真等を多用した情報発信を心がける。また本校の最新情報が発信できるよう、組織的に取り組む。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③「個別の教育支援計画」について、保護者の90%以上が内容に満足している。	学習指導	・保護者面談及びケース会議等において、「個別の教育支援計画」の内容について丁寧に説明し、合意形成を図る。	A	A	A	教育相談や保護者面談を通じて、本人や保護者のニーズを把握し、「個別の教育支援計画」に生かすことができた。個別面談で確認を行うことで、内容について共通理解を持つことができた。教師に対しては、次年度への引継ぎをスムーズに行えるように、年度末にかけて目標や実態などを入力していくよう周知した。		各欄について、空欄が無いように引き続き、教育相談や保護者面談を通して、本人や保護者の希望や要望を把握していく。また、入力済みの内容であってもその都度確認し、加筆修正を怠らない。アンケートの内容については、卒業後一般企業や福祉施設に対して提出するため、3年次の7月の保護者会を通して、具体的に書いていただくよう丁寧に説明していく。
		④交流及び共同学習について、年1回以上実施し、保護者や関係機関の90%以上が満足している。	交流教育	・学校間や地域の方との交流を実施し、活動の様子をWebページや学年通信、保護者会、学校評議員会等で知らせる。	A	A	A	手指消毒やマスク着用などの感染症対策を講じた上で、地域の方や地域の高等学校との交流活動を行うことができた。キャリアパスポートや学年だより、ホームページを通して保護者に周知した。異年齢集団での交流ができたことと考える。		今年度も、公民館の清掃に来てくれ、持参した様々な道具を駆使して、きれいにしてもらい、大変助かっている。予定していた活動ができ、良かった。コロナ禍では、実施できないことがあり、本意に救われていた。本年度で閉会された「第5回群馬県手をつなぐ育成会大会」では、太田特の生徒さんたちにツラな節を踏んでもらい、協力してもらった。盛り上げてもらい、大変感謝している。地域清掃もそうだが、地域に根ざした活動は大切である。今後も続けてもらいたい。
Ⅱ 地域 の特別支 援を受ける 児童生徒の 生活に 関するセ ンサー的 な役割を 果たして いますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言を求めていますか。	⑤地域の高等学校等の求めに応じて相談・支援等を100%実施する。	コーディネーター	・相談依頼内容に応じて日程調整を速やかに行う。 ・各高等学校のニーズに沿ったアドバイスができるように、学校風土なども理解しながら柔軟な姿勢で相談に当たり、実践可能な支援方法をアドバイスする。	A	A	A	要請に対して速やかに授業観察等を行い、助言をすることができた。高等学校の校内研修に講師として呼ばれることが増え、その高等学校が支援が必要な生徒への対応について、助言をもとに自力で解決しようとする意識が高まってきた。私立高等学校からの依頼もあった。		各高等学校の特別支援教育コーディネーターが替わり、昨年度と比較して訪問相談の依頼が激減した高等学校が数校あった。特別支援教育コーディネーターとの関係構築に努め、特別支援教育のハードルを下げられるよう説明をしていく。
		⑥学校参観日・相談日を中心に本校への来校者を積極的に受け入れ、来校者の90%以上が満足している。	コーディネーター	・地域の中学校・特別支援学校に対して、参観日や相談日の開催について通知する。 ・特に中学3年生とその保護者に対しては、開催日以外にも、相談日を臨時に設けて、いねいに対応する。	A	A	A	学校参観日への参加者数は272人であった。相談日への相談者数は、このべらへんであった。来校者の96%以上が満足していると同様。今年度も本校Webページ上で申込み状況が分かるようにしたことで、空きを確保した上で申込みしていただくことができた。また作業体系を、普通科向けと産業科向けとそれぞれ実施し、参加者からは満足したの回答を頂戴した。		参観日・各相談日や早い時期に予定通り、参観したい生徒保護者に連絡をかりし、またこのことがあった。次年度は、開催日程及び内容についてさらに検討して、地域の中学校・特別支援学校と連携していきたい。今年度も参観者が見たい・聞きたい情報は効率的に提供できるように、内容を精選していきたい。
Ⅲ 幼児 児童生徒 一人一人 の実態に 応じた適 切な指導 をしています か。	4 個に応じた適切な指導を行っていますか。	⑦「個別の指導計画」の内容について、保護者の90%以上が満足している。	学習指導	・保護者面談等で「個別の指導計画」における具体的な目標や手立て等について話し合い、共通理解を図る。	A	A	A	前年度から「保護者押印欄」を設けてファイルで取り替えるように変更した。保護者との話し合い機会を設けることにより、本人や保護者のニーズを把握することができた。また、学校生活の様子などから本人に付けさせたい力を検討、相談し、「個別の指導計画」に生かすことができた。本当に良かった。		職員会議や研修等において、作成の意義や作成方法について職員の共通理解を図るとともに、実際の記入例や参考事例を参考に、個別指導を実施し、保護者の要望をみ取りながら話し合いを行う。卒業後の生活を意識した目標設定や支援方法を決定する。また、太田ステーションの評価を活用し、生徒の実態把握に努め、実態に対する適切な目標設定ができるように周知していきたい。
		⑧運営委員会、職員会議、手配等において生徒の情報交換を毎日実施し、生徒の些細な変化に対しては全員で情報共有をしていますか。	生活指導	・いじめの早期発見・早期対応や自殺防止の観点から、職員一人一人の情報収集力、情報発信力を高め、情報を有効に活用していくための校内研修等を充実させていく。	A	A	A	運営委員会や職員会議、学年会等で生徒の情報交換を行い、共通理解を図った。		引き続き生徒の情報交換を密に行之、少しでも不自然さや違和感を感じたときはしかるべき組織で対応していきたい。
		⑨生活習慣の定着を図るための家庭と学校が連携した取組に保護者の80%以上が満足している。	生活指導	・「あたりまえだけこの十か条」を活用し、月初めに月別重点項目を配布し、保護者へ周知する。またSNSで安全に扱うための情報モラル講習会やいじめ防止フォーラムの情報を保護者に伝え、共通理解を図る。	A	A	A	年度初めに遠征の目標を総括し、月初めに重点目標を配付し保護者への認知向上に努めた。また、会議室廊下に掲示し職員の意識向上を図った。		配布物だけでなく十分にお伝えすることが難しいこともあるので、HP等に掲載するなど工夫が必要である。
		⑩学校のいじめ防止対策の取組を周知するために、保護者に取組に基づいた本校の取組方針等について、保護者の90%以上が満足している。	生活指導	・本校のいじめ防止対策の取組を周知するために、保護者に取組を配付し、ホームページに掲載する。また、いじめ防止等の取組アンケートを実施し、保護者からの声などを反映し、より正しいいじめ防止に努める。	A	A	A	学期毎に学校生活アンケートを実施し、生徒の内面の悩みを見逃さないように努めた。また「オンライン相談」などの相談窓口の周知を図った。		アンケートや相談ボックスの活用を継続すると共に、直ぐに相談できる手段の周知を図る。また、情報モラルの学習を深めると共に、保護者へ十分に依頼するような工夫が必要である。
		5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	教育企画	・研修係が中心となり、職員にとって有意義な授業研究会・研修会になるよう計画・実施する。 一人2回以上他の教諭の授業を参観し、参観後は、授業者と意見交換をする。	A	A	A	84%の教諭が他の教諭の授業を2回以上参観し、授業改善を図ることができた。夏季研修では施設見学に多くの教職員が参加し、生徒の進路選択に役立つ研修を行うことができた。今年度も外部講師を招き、生徒を基に具体的な生徒理解について研修を行う予定であったが、講師の都合により実現できなかった。それも職員のみで事例について検討し、含み、生徒理解を共有するとともに、指導方法について検討することで、専門性を高める事ができた。		本校職員の自己研鑽につながるような校内研修等を計画・実施し、その成果が、生徒理解や授業実践に生かされるようにしていく。
Ⅳ 健康 や安全の 確保に努 めています か。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が満足している。	保健指導	・毎日の健康観察及び衛生検査を実施して、生徒の健康状態の把握と管理、生活習慣の確立に努める。特に学校生活で配慮が必要な生徒は、医師の指導に基づき、保護者と連携し適切な健康管理に努める。	A	A	A	心臓疾患や代謝疾患、ケア対象生徒については、生活管理表等に基づいて管理にあたった。特にケア対象生徒については保護者と連携し昨年度策定した「個別の緊急時対応マニュアル」を見直し改善を図った。		今後も医療機関や家庭と連携し、生徒が持つ基礎疾患等の管理に努めるとともに、流行性の感染症等については、常に流行状況や具体的な対応、処置方法等の情報を提供し、共有し、家庭と連携を固りながら、生徒の健康や体調の管理に努めたい。
		⑬健康診断時に疾病疑いがあり、受診を勧められた生徒に関して、受診後及び復学後、受診後(治療率)及び個別の受診状況を年3回以上報告し、保護者面談等で受診を勧めている。	保健指導	・疾病疑いのある生徒(受診勧告者)に、結果受渡後速やかにその結果を通知する。 ・疾病を持つあるいは疾病疑いのある生徒(受診勧告者)の受診状況等を把握し、保護者及び担任に、「ほげんだより」や「学年だより」を活用し、受診率等を報告する。また、保護者面談等の機会に、受診や治療を個別に勧める。	A	A	A	受診勧告書や保護者面談で受診を勧めた結果、メタボリック疾患を持つ者は、全員が医療機関を受診し、医師の指導を受けことができた。新型コロナウイルス感染症の流行で低下気味であった歯科治療勧告者はほとんどの各種の受診率が、や回復してきた。		医師・保護者と連携しながら、引き続き健康管理や体調管理に努めるとともに、将来につながる健康維持管理のための保健指導等を実施したい。また、予防医学の視点から、生活習慣病の予防と理解を促すための健康教育に注力したい。特に歯科については、歯科疾患の治療を推進していくとともに、歯科衛生指導(ブラッシング指導等)をより充実させたい。
		⑭危機管理マニュアルをもとに、緊急時の対応策(避難訓練)を年3回以上実施している。	安全対策	・危機管理マニュアルの見直し、改善を図るとともに、避難訓練や職員研修の実施を年間計画の中に明確に位置付ける。	A	A	A	災害時の対応組織や避難時の応援姿勢、避難経路等を見直し、それに基づき各種避難訓練を計画どおり実施することができた。また本年度は、昨年度作成した「緊急時の保護者への引き渡しマニュアル」に基づいて、大規模地震発生時の引き渡し訓練を保護者と協働して実施した。		避難訓練の実施にあたっては、訓練の内容や方法を一部変更するなどマンネリ化を防ぐとともに、実際の状況に即した訓練となるよう工夫を重ねたい。今後は避難訓練だけでなく、事前・事後指導等で活用できる各種防災教育資料等の充実も図りたい。
7 危機管理体制が確立され、緊急時の備えができていますか。	安全対策	⑮危機管理に関する職員研修を年3回以上実施している。	安全対策	・普通救命講習(AEDの扱いを含む)や不審者対応等の職員研修を関係機関と連携、協力で行う。 ・危険箇所や危険状況が確認された際には、初期対応を直ちにを行う。	A	A	A	緊急事態発生時の迅速な対応のため、救命講習(日本赤十字社と連携)、緊急時対応訓練(通報放送訓練)、不審者侵入時対応訓練(太田警察署と連携)を実施した。		今後も関係機関との連携を固り、危機管理に関する職員研修の実施と充実に向け、生徒の安全確保及び迅速な緊急時対応が図れるようにしたい。
Ⅴ 将来 の生き方 に結びつ く道路指 導を行っ ています か。	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた道路指導を行っていますか。	⑯道路学習について、道路講演会内容を年5回以上実施し、保護者の90%以上が満足している。	道路対策	・道路講演会や生徒が体験的活動ができる機会を、年5回以上実施する。 ・学年主任会議で学年間の情報交換を適切に行う。	A	A	A	各種体験的な研修や道路講演会などの内容を見直し、精選することを心がけた。より充実した実りある学習となった。		引き続き、各種体験的な研修や道路講演会等において、生徒や保護者のニーズに合った内容にする。限りある予算の中、工夫していく。
		⑰道路先や関係機関との連携について、保護者の90%以上が満足している。	道路対策	・支援協議会に道路指導専事が出席し、地域の障害福祉サービス事業所等と情報交換ができるようとする。関係機関との連携を深め、電話や電子メール、フックアップ等に情報収集に努める。 ・フックアップ、労働政策課、障害者就業・生活支援センター(わーくすぽーと)と共催で企業向けの学校見学会を実施する。	A	B	B	地域の支援協議会が行事が多く開催され、情報交換および収集する良い機会となった。より関係機関との連携を高め、最新の情報発信に努めた。		太田市20周年記念事業における太田市障がい者永年勤続表彰を、弊校の7名(全員太田特の卒業生)がいただいた。弊社に勤めている太田特の卒業生は、今まで誰にも聞いていない。現場実習では、2回、3回と回数を重ねる難に成長している実感できる。生徒の個性も理解できるようになり、生徒も他の従業員と親しくなり、いつの間にか実習生でなく従業員のようになっている。実習の最後には、「卒業後、ここで働いていくことができるだろう」と確認をもつことができる。これも実習生に学校で反省をし、次回に向けて事前準備を整えてくれたためと考える。アンケート結果の数値を見限り、外部アンケート及び総合評価はAで良いと思う。